

【着眼1】 ノートに自分の考えを表現させるための着眼

- ①既習内容の確実な習得を図る児童の工夫
- ②活動からノートへの表現を結ぶための工夫

【着眼2】 ノートを活用して話し合わせるための着眼

- ①ノートで比べ合い、見直しができるための「みんなで学ぶ」学び方のモデルの活用
- ②ノートの考え方から、本時の価値（数学的思考・道徳的価値など）へと導くための働きかけ

1年生 幼年期教育（音楽）

成果

- 目的をはっきりさせることで、取り組む内容に集中することができた。
- 単発の交流だけでなく、そこに至るまでの準備に気持ちが向くようになった。
- 係活動や生活科の学習の中で、もっと交流したいという気持ちが出てきた。
- 気持ちを伝える手段がいろいろあることに気付き、実践しようとするようになった。
- 職員の保育士・幼稚園体験を行うことで、保育士、幼稚園教諭との交流ができ、お互いの課題が考えることができた。

課題

- 保幼小の連携だけでなく、保幼の横の交流も目的であるので日程を合わせる事が難しい。大きな交流だけでなく、日々の小さな交流を積み重ねられるようにカリキュラムへ位置づけるようにする。
- 担任や幼年期教育担当者が変わっても連携が継続していけるように、分かりやすい記録を残していく。
- 低学年だけでなく、他の学年にも保幼小の連携を広げられるようなカリキュラムづくりを進めていく。

2年生 （算数科）

- ① 実物を出して見せたことと、絵を別々に提示することで、児童は問題場面をとらえることができた。また、単元を通して、分かっていることと尋ねていることを考える活動を常にやってきたこともあり、児童は題意をつかむことができていた。
- ② 問題文を見て、今までの学習と違うところはどこになるかを問い、全体の場で話し合うことで、児童全員が見通しをもって問題に取り組むことができた。
 - ・ ノートに自分の考えを書く時間を確保することで、自分の考えを確かめることができた。
 - ・ ペアやグループでの交流では、自分の考えを絵や図を使っていたノートを見せながら行ったことで、自分の考えを説明できるようになってきた。

課題

- グループでの話し合いでは、時間配分がうまくいかなかったこともあるが、それぞれの意見を伝え合うだけの場になっていた。もう少し時間を取り、話し合いが深まっていけるようにしたい。
- 算数ノートの考え方から、数学的な考えへと導くための手立てとして、ホワイトボード等の活用を考えたい。これにより、グループで出した意見をもとに上手くまとめることができる工夫を考えていきたい。

3年生（算数科）

- 本時の初めに既習事項の確認をしたことは有効であった。黒板横にいつも掲示しておくことで、児童がいつでも確認できるようにした。
- 本時では、長いすの問題とボールの問題を比較し「どちらの問題も答えに1ふやす」という共通点を見つけ、理解を深めることができた。
- キーワード「あまりをそのまま書かずに答えに1ふやす」を導くための発問をすることができた。
- 1増やす時は「みんな」「全部」という言葉があることに児童自身が気づくことができ、児童の言葉を生かしたまとめをすることができた。

- 式にかかっている数字の意味を確かめる。
- 今までの問題と違うところを意識させるため、線をひくなどの手立ての必要性。
- めあて・まとめを児童の言葉で考え、まとめることを継続して行う。
- ペア学習の充実。自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを理解する。

4年生（算数科）

- 既習内容の確実な習得のために、黒板横に既習の提示をした。また、導入では、複合図形を正方形や長方形を見つけては面積を求められると見通しを持たせることができた。
- 思考の手順を提示することで、児童が主体的にノートに自分の考えをかくことができた。また、順番に提示することによって、集中してノートに自分の考えをかくことができた。
- 本時のキーワード「二つに分けて足す」と「かき足して引く」を導くための発問をすることができた。
- 黄色で板書をするので、児童の言葉でまとめることができた。

- 時間配分を考える。必要に応じて、問題を選定する。
- めあて・まとめを児童の言葉で考え、まとめることを継続して行う。
- 低学年からの基礎・基本の定着が必要。
- ペア学習を今後も続ける。

5年生（算数科）

- 説明力アッププリント⇒準備運動（第1時）や朝自習を活用して、図のまとめ「4年生の式と計算」の学習を振り返ることで、本時学習の見通しをもたせることができた。
- 本時では、1問目と比較し、共通点を見つけるための問題とすることで、理解を深めることができた。
- 本時のキーワード「まとめりと式をむすびつける」を導くための共通点に目を向ける発問を行うことができた。
- 黄色で板書（かこむ）言葉を使い、キーワードを基にして、児童の言葉を生かしたまとめる活動を行うことができた。

- 低学年からの基礎・基本の定着が必要
- 人にわかりやすく伝えるためのかく（図や式・理由）活動を継続的に行う。
- 同じ考えの児童に挙手させ、「別の考えは？」と問い、話し合いを整理する手法。
- 児童の発言やノート分析を行うことが必要。
- アンケート分析や、事前事後だけでなく、単元を通したふりかえりを行うことが必要。

6年生（社会科）

- ① 子ども達の考えを深めたり広げたりする教師の働きかけの工夫
- 発問に対するキーワードを意識させることで、考えを明確にすることができた。
 - 考えを可視化することで、説明したり議論したりしやすくなった。
- 発問に対するキーワードを意識して、自分の考えをもたせることで、自分の考えを説明しやすくなることが分かった。さらに、ホワイトボードに書くことで、班での話し合いがスムーズになった。

- 歴史学習に関しては、「課題をつかんで、調べて、まとめて、話し合っ、考える」ということを45分間で行うのはなかなか難しい。特に、グループで話し合う時には、一人一人が意見を言う時間が確保できないことが現実である。この改善策として、2案ある。1つは、学習の終わりに課題をつかませて、調べてまとめることを家庭学習でさせる。もう1つは、単元の中でいくつかだけ、じっくりと討論させる時間にする。
- 継続して行うことが大事。

たんぼぼ 生活単元学習

- 2年生の時の担任からは、にこにこして、「学校が楽しいって顔をしてるよ。」と言われた。また、F児も「放課後のバレーボールがしたい。」と言って監督に自分から「もう1度バレーボールが、したいです。」と言ったそうである。バレーボールの練習へ行っても体育館の隅で別メニューの練習をしていたのに今は、みんなと一緒に練習をしている。二人とも**できることが増えて自信につながった。**

みんな時刻を読むようになったが、時間をまだ理解していない。時間の長さを理解させるにはどうしたらいいか。バスがくるまでの時間の長さをどのようにして理解させていくかが、課題である。また、JRの上り線や下り線の時刻表の見方や図書館での本の借り方など児童がこれから先、生きていくために役に立つことを中心に生活単元学習は、組んでいきたいと思う。